

滋賀県草津市は、FM電波を使った一斉緊急放送システムを全国で初めて、三月六日から導入した。導入して間もない三月十一日に起きた東日本大震災の際は、コミュニティFM局「えふえむ草津」から市内七十九カ所の屋外スピーカーを通して情報発信。FMラジオを聞いている人にも災害情報をいち早く伝えた。

FM電波を使うので、その都度起動する必要のある防災無線より十秒以上早く放送できる。総務省消防庁の全国瞬時警報システムから届く情報を、市が受信して四秒程度でスピーカーから発信。地震の場合は、震度5弱

## FM電波で災害情報



緊急時に一斉放送するえふえむ草津の放送室＝滋賀県草津市で

滋賀県草津市が全国初導入

### 東日本大震災時に力

以上で放送の途中に割情報が入り込み「緊急速報。大恐れがあり、市は防災地震です」と伝える。従来は十三学区の各自治連合会長が防災無線を持ち、町内会から住民に伝えていた。

「三陸沖で発生した地震で被害が拡大しており、テレビ、ラジオからの情報を注視してください」と放送。えふえむ草津の酒井恵美子社長(右)は「遠くにいる人には音が響いて聞こえにくくなるので、ゆっくり話した。災害時に情報源となるラジオ局の放送施設からも発信できる。」と意欲を示す。

中部発

東日本大震災の際には、えふえむ草津のほか、市役所、湖南広域消防局の放送施設からも発信できる。

#### 取材後記

災害が起きて停電しても、電池があればラジオから情報を得ることができる。えふえむ草津の酒井社長は、ラジオ局として災害情報の発信に力を入れなければと思っていただけに「システムを導入してすぐに東日本大震災が起こるとは」と驚きを隠さない。局には市民から「ちゃんとスピーカーから聞こえましたよ」「放送してましたね」と意見が寄せられた。非常時には、市民からきつと頼りにされることだろう。(猪飼なつみ)